

サイクリングによる地域振興 — 「Setouchi Vélo 協議会」の取組を中心に—

本州四国連絡高速道路株式会社

1 Setouchi Vélo 協議会の概要

Setouchi Vélo 協議会（以下、「本協議会」という）は、瀬戸内地域及びその周辺地域を、環境に配慮しつつ、安全で快適な、世界にも認められる「サイクリングの推進エリア」として育成することにより、瀬戸内地域のブランド価値向上を図り、持続的な地域振興を実現することを目的として、2022年10月29日に設立されました。

本協議会は、当社、中国地方整備局、四国地方整備局が事務局を務め、地方自治体（県・市町村）、地方運輸局、経済産業局、経済連合会、広域連携 DMO、観光協会・地域 DMO など、官民多様な関係機関により構成されています。2026年11月に島根県が加盟したことにより、中国・四国地方と兵庫県の10県にエリアを拡大し、構成団体及び参加団体を合わせて89団体（2026年4月時点）が参画する広域的なネットワークが形成されています。

会長は、構成団体である瀬戸内地域等の各県の知事が持ち回りで務めています。第4期（2025年11月7日以降）においては岡山県知事が会長を務め、総会、作業部会、市町村ミーティング等を通じて、関係機関相互の連絡調整や情報共有を図りながら、協議会全体の取組を推進しています。



広島県知事（写真左）から岡山県知事（写真右）への
ハンドオーバーセレモニー（第4期総会）



トライアルライド（第4期総会）
岡山県和気郡和気町（片鉄ロマン街道ルート）

2 本協議会の主な活動内容

本協議会では、「サイクリングルートのネットワーク化」「サイクリングの推進エリア化」「国内外への情報発信」の三つを柱として、それぞれを相互に関連づけながら活動を展開しています。

(1) サイクリングルートのネットワーク化

瀬戸内地域等には、各県・各市町村が主体となって設定・整備してきた多数のサイクリングルートが存在しています。これらのルートは行政区域ごとに管理・発信される場合が多く、広域的な周遊性や一体的な魅力発信という観点では、十分とは言えない状況にありました。

そこで、本協議会では瀬戸内地域等のサイクリングルートを「Setouchi Vélo ルート」として登録し、行政境界を越えたネットワーク化を進めています。「しまなみ海道」や「淡路島一周（アワイチ）」、「四国一周」など全国的に知名度の高いルートに加え、各県・市町村が設定する地域色豊かなルートについても順次登録を進め、ルート数及び総延長の拡大を図っています。

「Setouchi Vélo ルート」に登録されたルートは、本協議会ホームページで紹介するほか、Strava や Garmin といったスマートフォンアプリと連携し、サイクリストが実走行に活用できるナビゲーション環境の整備を行っています。これにより、初めて瀬戸内地域を訪れる利用者にとっても、安心してサイクリングを楽しめる環境づくりが進んでいます。

また、ルートをエリアで一体的に紹介するため、「SETOUCHI CYCLING BOOK（サイクリングブック）」を作成・配布しています。本冊子では、サイクリングルートやサイクリングイベント情報等も掲載し、瀬戸内地域全体のサイクリングの魅力を発信するツールとして活用されています。



「SETOUCHI CYCLING BOOK 2026」

(2) サイクリングの推進エリア化

本協議会では、ルートの整備や情報発信にとどまらず、地域全体でサイクリングを受け入れ、支える「推進エリア」の形成を目標としています。その一環として、市町村ミーティングを開催し、行政担当者や地域関係者と本協議会の取組内容や先進事例を共有するとともに、各地域が抱える課題や今後の方向性について意見交換を行っています。

また、サイクリング環境の向上を図るため、ルート調査を実施しています。ルート調査では、行政関係者と有識者が実際にルートを走行し、坂道や長距離移動への対応状況、案内表示や路面の状態、休憩施設の有無などについて多角的に確認を行っています。これにより、ハード・ソフト両面から課題を整理し、今後の整備や新規ルート設定へとつなげています。

加えて、歩行者・自転車・自動車が互いの立場を尊重し、安全かつ快適に道路を共有することを理念とする「SHARE THE ROAD（シェア・ザ・ロード）」の考え方を普及させるため、構成自治体の県警等と連携し、啓発チラシの配布や広報活動を継続的に実施しています。



「SHARE THE ROAD (シェア・ザ・ロード)」啓発チラシ

さらに、地域ぐるみでサイクリストを支える仕組みとして、「Setouchi Vélo スポット (CYCLE SUPPORT SPOT)」の登録・発信を進めています。飲料補給、空気入れの貸出、トイレ利用など、サイクリストを支援する施設・店舗を可視化することで、安心して走行できる環境づくりを推進しています。

(3) 国内外への情報発信

瀬戸内地域等が有する世界に誇るサイクリング環境を広く発信するため、協議会では国内外への積極的な情報発信を行っています。

例年3月に開催の「サイクルモードライド大阪」などのサイクリングイベントへ出展し、協議会の取組紹介やサイクリングブックの配布、関係県の情報発信を行うことにより、潜在的なサイクリング層への認知向上を図っています。

加えて、協議会ホームページやSNSを活用した継続的な情報発信、構成団体・参加団体のウェブサイトへのバナー設置など、デジタルを活用した広報にも取り組んでいます。

3 ルート調査 (蒜山高原自転車道ルート)

先日開催したルート調査 (岡山県) の活動についてご紹介します。

2026年4月22日 (水) から23日 (木) の2日間、岡山県真庭市にて「蒜山高原自転車道ルート」のルート調査を実施しました。調査には、岡山県、中国地方整備局、せとうち観光推進機構、真庭市などから計14名が参加し、参加者の中には、E-BIKEでの走行が初めての方もいました。

「蒜山高原自転車道ルート」は蒜山高原を1周する約29kmのルートで、北側は観光施設が集まるエリア、南側は蒜山三座を望む雄大な景観が特徴です。このエリアは、サイクリングに加え、一般観光客やファミリーでの利用も多いことから、特にファミリー層をターゲットとした場合のサイクリング環境の整備を主眼とした調査を実施しました。

23日 (木) があいにくの雨天予報だったため、22日 (水) に往復走行し、調査を行いました。自転車

自転車に乗るときはヘルメットを着用しましょう!
全ての自転車利用者のヘルメット着用が努力義務になっています。

なぜヘルメットをかぶらないといけないの?

転倒時の損傷箇所割合

転倒時の損傷部位を見ると、頭部が圧倒的多数を占めています。転倒の際には高さや硬さで損傷する、あるいは自動車等の衝突で直撃に巻き込まれたり、身体や四肢で走行する機会が多いことが原因といわれています。これらによって意識昏倒や脳挫傷、脳しんとうを起こすケースが多く、死に至っています。結果から、頭部に損傷を受けると、他の部位に比べ死に割合が著しく高くなり、死亡に至る確率につながります。まずは頭部を守る、つまりヘルメットの着用が何よりも大切であるとされます。

転倒時の損傷箇所割合

頭部	53.1%
その他	20.3%
胸部	12.0%
腹部	9.4%

自転車乗用中死者の人身損害賠償額 (令和2年~令和5年合計)
※令和2年~令和5年合計
※令和2年~令和5年合計 (人身損害賠償額) ※令和2年~令和5年合計 (人身損害賠償額)
※令和2年~令和5年合計 (人身損害賠償額) ※令和2年~令和5年合計 (人身損害賠償額)

着用時と非着用時の比較など

傷害中の自転車の転倒時に設置にかかる力 (骨折の危険性) や脳にかかる力 (脳しんとうの危険性) はどの程度かを検証するため、「ヘルメット装着の場合」と「ヘルメット未装着の場合」の人体モデルを使った「転倒実験」をもとにシミュレーションと実験、ヘルメットの効果性が示されています。

◆転倒時に発生する力、60%強が死に至る重大事象に!

※令和2年~令和5年合計
※令和2年~令和5年合計 (人身損害賠償額) ※令和2年~令和5年合計 (人身損害賠償額)
※令和2年~令和5年合計 (人身損害賠償額) ※令和2年~令和5年合計 (人身損害賠償額)

青切符 (自転車の交通反則通告制度) 導入について

※自転車対象とされている反則行為 (下記は一例です)

令和8年4月1日~
自転車の交通違反が青切符の対象に!!

- ながらスマホ (携帯電話使用時 (禁持)) 反則金 12,000円
- 通断前切入入り 反則金 7,000円
- ブレーキなし自転車 (自転車制動装置不全) 反則金 5,000円
- 二人乗り (乗車者乗車時制動装置) (安全委員会認可時適用) 反則金 3,000円
- 後方視認 (安全委員会認可時適用) 反則金 5,000円
- 並進禁止違反 (安全委員会認可時適用) 反則金 3,000円

交通ルールを守って安全運転を!!

※令和2年~令和5年合計
※令和2年~令和5年合計 (人身損害賠償額) ※令和2年~令和5年合計 (人身損害賠償額)
※令和2年~令和5年合計 (人身損害賠償額) ※令和2年~令和5年合計 (人身損害賠償額)

道が整備されているルートでは、片道走行のみでも十分に把握できるように思われがちですが、実際に往復走行することで、進行方向の違いによる視認性や安全性、走行しやすさなど、異なる課題を確認することができました。

23日（木）は、雨天のため、車両移動にて観光施設の調査を行いました。サイクリストのニーズに応えられるスポットとなっているか、レンタサイクルの整備状況等を確認し、2日間の最後に調査結果を踏まえた意見交換を実施しました。意見交換では、往復走行による調査結果として、同ルートは時計回りで設計されており、道路走行の安全性やスムーズさの観点では時計回りが適している一方、景観の楽しみ方としては雄大な自然景観からスタートすることができる反時計回りが好まれる意見が挙げられました。そのほか、ファミリー層をターゲットとしたショートコースの提案や、道路の整備についてなど活発な議論を行いました。



蒜山高原自転車道ルート

4 おわりに

今後、瀬戸内エリアを取り巻くサイクリング環境は、さらなる発展が見込まれます。

2027年5月には、アジアで2回目、日本では初開催となる自転車の国際会議「Velo-City 2027 愛媛」が愛媛県で開催される予定であり、瀬戸内のサイクリング環境や地域の取組に対し、国内外からの関心が一層高まることが期待されます。また、2027年度には大鳴門橋自転車道の開通が予定されるなど、広域的なサイクリングネットワークの充実も進み、瀬戸内全体がサイクリングを核とした地域づくりの新たな段階へと進展していくことになります。

Setouchi Vélo 協議会では、「one setouchi, each story」の理念のもと、瀬戸内を一つのエリアとして捉え、一体となりながらも、各地域が有する景観、文化、暮らしといった固有の魅力を尊重し、それぞれの“物語”がサイクリングを通じて体験される環境づくりを進めています。今後も、自治体、関係団体との連携を強化し、世界からも認められる安全で快適な走行環境の整備と、持続可能なサイクリング環境の形成に取り組んでまいります。

Setouchi Vélo 協議会 ホームページ (<https://setouchivelo.jp/>)

Setouchi Vélo 協議会 公式 Instagram (@setouchi_velo)



「Setouchi Vélo 協議会」ロゴ



ホームページ



Instagram